

流れぬ車 避難阻む



県警は県道81号の伊佐一喜友名間500mの全4車線を一方通行にし、ライカム向けへの避難を促した=3日午前10時過ぎ、宜野湾市 (オキジモ提供)

全4車線一方通行に

宜野湾の一部 県警 高台へ誘導

台湾付近を震源とする地震で3日、県内で発令された津波警報を受けて多くの県民が車で避難したため、県内各地の道路では渋滞が発生した。車の社会の沖縄が抱える防災の課題が露呈。専門家は、平時から避難計画を立てておくことの重要性を訴えた。

(社会部・豊島鉄博)

那覇市久茂地の国道58号では午前9時半ごろ、南向け車線はがらがらだった。北向けは渋滞が発生していた。石垣市や宮古島市

の一部でも渋滞で車が動かなくなつた運転手が路上に乗り捨てて避難したため、混乱を助長した。

県警によると、地震と津波警報に関連する110番通報は3日正午までに42件。その大半が「渋滞で車が動かせない」といった内容だった。

津波避難を促すため、県警が一時的に全車線を一方通行にして対応するケースも。宜野湾市伊佐から喜友名までの県道81号約500mの全4車線を午前9時40分から約40分間、高台にある北中城村ライカム向けの一方通行にした。大山小学校付近の市道約500mも一方通行で対応した。

県警交通規制課は「海側から陸側に誘導するための緊急措置」と説明。那覇市の久茂地や泊など8カ所では、青信号を通常時より長く点灯させた。

災害時への避難について工学院大学の久田嘉章教授(地震工学)は「自分の車も守るため、車で避難したい気持ちは分かるが、高齢者や持病を持っている要配慮者の避難の妨げになる恐れがある」と指摘する。「避難方法に唯一はない。地震に備え、一人一人が平時から避難計画を立てて準備しておくことが大切」と話した。